

TS（トータル・サティスファクション）を目指して M25

「できた人から前へ・・・」？

校長室担当より

学校の授業中に、「できた人から前に持ってきてなさい」という指示を出されることがあります。そう言われると、子どもはほぼスピードを意識します。早く前に行き、マルをもらう子は勉強ができそうに見えます。一方で、勉強が苦手な子どもは、周りがどんどんマルをもらう中、自分だけがもっていけないと焦りますし、焦ると余計に問題に集中できない状況になり、できていないことが周囲にばれないようにして頭がいっぱいになります。そして、これが続くとどんな問題が出されても最初からあきらめてしまうようになります。このように、競わせるやり方は、勉強が苦手な子どもの見通しを奪ってしまう原因の一つとなるのです。

大人は、子どもに少しでも速く問題を解くことができるよう、つい時間を計ってしまいたくなります。スピードを競わせ、序列化をしやすくしているのです。大学入試等では入学できる人数を決めることが求められていますから、試験がある以上仕方のないことかもしれません。しかし、それは学習本来の目的からはずれています。学習指導要領にはそのような目的は記載されていません。勉強が苦手でなくとも、時間をかけてじっくりと取り組むことが好きな子ども、いろんな解き方を工夫することが好きな子どももいます。そんな中で、急いでやらせることは、正解だけを速く求めるようになり、解く過程がどうしても疎かになります。これが自分のペースで解きたい、納得して次に進みたいという子どもの気持ちを削いでいることになっていないか注意しなければならないと思います。

学校のような集団指導の中では、処理スピードの速い子どもとそうでない子どもが混在しており、それへの対応が必要となります。そういう場合には、自分で時間を決めさせることが推奨されます。そして時間を計って目標時間に最も近くなるように取り組んでもらう。こうすることで自分の力を客観的に知ることができ、安心して授業に取り組めるようになります。多様な子どもがいる中で、一人一人が明確な見通しをもつことを念頭に教育活動を行っていく必要があります。家庭も学校も連携してこれを進めていきたいものです。（令和7年11月5日）